

事務所からのひとこと

師走の声が聞こえ、心あわただしいこの頃、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか？

木枯らしが身にしみる季節になると、会社や個人で忘年会を行われることでしょう。忘年会は、英語として「Bounenkai」という言葉があるように、日本固有の行事と考えられています。その起源は連歌の会や武士の宴会など諸説紛々としています。ただ、「忘年会」という言葉が最初に使われたのは、夏目漱石の「我輩は猫である」だそうです。

さて、忘年会の華は、やはり居酒屋。いまや、「単一価格居酒屋」や「0円居酒屋」の流行につづく注目店は、バイキング居酒屋です。「15分で394円」とかなり細かい時間設定で、短期集中型で呑んで変えることができるのが特長。1杯いくら、という考え方ではなく、時間の対価をいざこうと発想を変えるという視点は、業界問わず参考になるのでは。

師走との言葉どおり、周りもあわただしくなりますが1年の締めくくりとして頑張ってくださいませ！

COLUMN

ホンダの「A00」 仕事の狙いを 一言でいうと？

ホンダでは、仕事に取り組むときに「A00(エーゼロゼロ)は何か」と質問するしきたりがあります。

「A00」とは、米陸軍の任務指令書から転用した言葉で、「基本要件」を示す言葉のこと。

取り組んでいる業務の基本的性格、自分は何をしたいのか、どのように貢献したいのかなど、「仕事の狙いは一言でいうと何なのか？」という意味で使われています。例えば設計変更の理由として、性能向上や軽量化、コスト削減だけでは不十分で、「なぜそれが必要なのか」という本質が要求されます。

ホンダの強みとして、「ワイガヤ」に代表される自由闊達さが挙げられますが、一つひとつの仕事でA00をきちんと確認していることがホンダの強みであるように思います。常に仕事の趣旨目的や、どのような貢献をすべきかを確認しながら仕事を進めていくようにしましょう。

pick up Topics

ビジネス小説で異例のミリオンセラー 「もしドラ」、認知率は4割以上

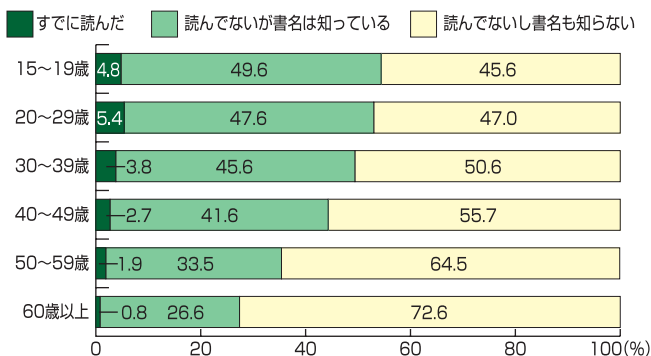
『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』(岩崎夏海著、ダイヤモンド社)、通称「もしドラ」が話題だ。2009年12月の発売から約7カ月で100万部を突破するなど、ベストセラーとなっている。しかし、実際の認知度はどうなのだろうか。

インターネットリサーチ会社クロス・マーケティングの調査結果によると、「もしドラ」の認知率は42.1%と高い。カバーイラストを見ての通り、同書は若年層がターゲットだが、回答を年代別に見ると60歳以上の認知率も約3割あった。(【図】参照)

若年層向けの青春小説に、中高年御用達のドラッカーをはじめ込むという組み合わせの妙が多くの読者をつかんだことは間違いなし。一方、「ドラッカーを読みたいが、どれを読めばよいのか分からない」というニーズに対し、ビジネスとは無関係の高校野球という素材でアプローチした点、さらに同書を機に新たなドラッカーファンも増やすという一挙両得のマーケティングは注目に値する。



【図】「もしドラ」の認知



資料：クロス・マーケティング「もしドラ」に関する調査

pick up Topics

企業の約3割がオーナー企業 ～うちキャッシュリッチ企業は1万224社～

日本企業はオーナー企業が多いとよく言われるが、実際にはどの程度存在するのだろうか。

帝国データバンクがまとめた調査結果によると、全国にオーナー企業は40万9192社あり、同社の企業データベース(約135万社)に占める割合は29.9%であった。

その中で、潤沢なキャッシュを保有しているとみられるオーナー企業*は、決算数値が判明した企業7万1333社のうち、1万224社(構成比14.3%)となった。年商規模別では「年商1億円以上～10億円未満」(同63.3%)が最も多く、次いで「1億円未満」(17.3%)、「10億円以上～50億円未満」(16.2%)となった。地域別では「関東」(34.8%)、「近畿」(15.5%)、「中部」(11.0%)など都市圏に多く分布する傾向がある。(【図1】、【図2】参照)

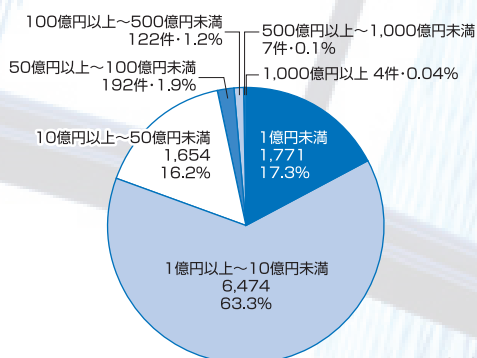
このキャッシュリッチのオーナー企業が今、

東日本大震災の支援活動で存在感を示している。ファーストリテイリングは震災3日後に、柳井正社長が個人で10億円、企業で3億円、社員が1億円の計14億円と、7億円分の支援物資の供出を決断。ソフトバンクの孫正義社長は個人で100億円、11年度以降の代表報酬全額、グループで10億円の寄付を決めた。

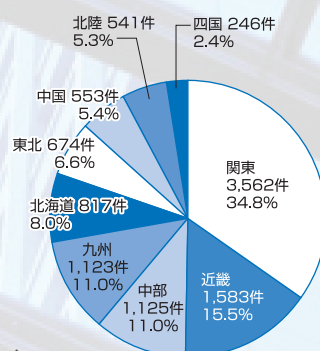
仮に1万224社のキャッシュリッチ企業が、平均1億円ずつ義援金を寄付すれば、約1兆円もの金額にのぼる。政府試算(3月23日時点)の震災被害額25兆円の4%に当たる計算だ。オーナー企業の最大のメリットは「意思決定の早さ」。この強みを被災地へ向けた支援などにも発揮してほしいと切に願う。

※決算数値判明企業のうち、(現金・預金+有価証券-有利子負債) / 総資産 × 100 = 20%以上のオーナー企業

【図1】 キャッシュリッチ・オーナー企業
(年商規模別)



【図2】 キャッシュリッチ・オーナー企業
(地域別)



資料：(株)帝国データバンク
「特別企画：全国オーナー企業分析」より作成

経営情報

企業はゴールのないマラソン。
バトンタッチできる人材を育てているかどうかで、企業生命は決まる。